令和5年度 日本大学校友会役員総会開催

大谷喜一（おおたにきいち）新会長就任後 初の役員総会

令和5年度の日本大学校友会役員総会が7月31日、東京都文京区の東京ドームホテルで開催され、4年度の行事等の報告に続き校友会の会則と規程の改正、4年度収支決算などの議事4件が賛成多数で承認された。

総会には全国の都道府県支部、学部別・職域別部会、桜門会の役員262人（議決権行使および委任状による出席者156人含む）が出席した。

6月の臨時役員総会において新会長に就任した大谷喜一会長は「公正で透明な校友会運営のために事前に議事概要を送付し、委任出席の方には議決権行使書と委任状を提出してもらった。全国の校友との絆を深め、幅広い世代の会員拡充を念頭に置きながら、頼りがいのある校友会の実現のための第一歩としたい」とあいさつ。新体制の三原則として「透明性のある運営と組織のスリム化、女性役員の積極的登用」を挙げた。

会則・規程の改正のポイントは①役員数を約450から約260に減らす②これまでの常任委員会を支部長・部会長会に、常任会を執行部会に名称変更する③副会長の選出は各ブロックから互選された支部長10人と学部別部会から互選された会長4人などとする④役員の就任制限⑤役員会費は現行通り―など。

総会の後は4年ぶりに懇親会が開かれ、林真理子理事長と酒井健夫学長も参加して校友と活発に意見交換し、交流を深めた。

会場には全国から106人が出席

【大谷氏の略歴】
昭和26年生まれ。北海道出身。
1975年、日本大学理工学部薬学科（当時）を卒業後、杏林製薬株式会社を経て、1980年株式会社オータニを設立。1988年株式会社第一臨床検査センター代表取締役社長に就任（現任）。1998年株式会社アインファーマシーズに社名変更。2010年、東証一部上場。2015年株式会社アインホールディングスへ商号変更。調剤薬局業界最大手に導く。

VUCAの時代

日本大学商学部長　長谷川 勉

長谷川商学部長

不安定性（変動性）・不確実性・複雑性・曖昧性の四つの頭文字を用いて、今の時代を表している。若い校友の方々から年配の方々まで、誰もが等しくこのVUCAから生じる様々な出来事から逃れることはできない。自然環境は異常気象・温暖化という言葉からわかるように、予測不可能な、歴史的記録を示し続けている。温暖化から沸騰化というネーミングすら飛び立つ始末だ。

経済は、AI、否生成AIの登場が暗示するように、われわれの仕事の内容と量を大きく変えようとしている。生まれる仕事もあるであろうが、失われる仕事も多い。過去を振り返って、長い目で見れば、無くなる仕事も多かったが、今ほど失われる仕事で、世間が沸騰している時代はない。産業革命は当時の人々によって、いまのような感覚にとらわれていたのかもしれない。機械打ちこわし運動があったように、AIの手先であるスマホを壊してしまうなど、恐らく現代人にとって不可能であろう。つまり、逃れられない大きな力であるということだ。

そのほかにも、社会においてはいままではっきりしていた、もしかしてはっきりしていると思われてきたことが、曖昧となっていることは多くあり、境界という線を引くことを難しくしている。ある意味二項対立なる言葉によって片づけられることはほとんどないといってよく、政治の世界、特に国際政治の世界を見れば明らかだ。世界で勃発している紛争は決してシンプルなものではなく、各国・各民族の利害が複雑に絡み合っている。

こうした世の中において、私たちはどのように生きて、生きるべきなのか。日本人にとって苦手な問いかもしれない。解答は一つか、それとも多数か、それすら私にはわからない。この問いに反応した校友の人たちにはただただ託びるしかない。

ただ一つだけ提案したいことがある。答えにたどり着けるかどうかわからずとも、問い続けることが生きること、「何故」と発することこそ、誰かに依存することなく、自分自身の足で立って、解に近づける道であるのではないかと思っている。きっと、VUCAの時代において、このことこそ生きる方法を教えてくれ、生きる意味を感じさせてくれるのではないかと自問する毎日である。

創立50周年へ。学生を支援する熱意と情熱で歩む

日本大学商学部校友会会長　山本 裕二

これからも砧キャンパスの学生たちのために

私は本年6月3日に開催された商学部校友会総会において会長職を重任することになりました。2期目はますます気持ちを引き締め、この重責を熱意と情熱をもって果たしてまいります。

今、コロナ禍はようやく収まり、砧キャンパスは通常の学生生活に戻っています。対面形式の授業が復活し、キャンパスは学生で一杯に溢れています。商学部校友会室も2号館1階から2号館5階に移りました。新しい校友会室は教室のすぐ近くにあり、学生の学ぶ姿を肌で感じ、生き生きした声が溢れる中で校友会活動が行われています。

そこであらためて考えたいのは、商学部校友会が何のために存在するか、ということです。校友会である以上、卒業生の親睦を深めるためにあることは言うまでもありません。その上で大切になるのが後輩である学生たちを支援していくというミッションです。

日本大学元理事長兼前日本大学校友会長以下の不祥事から日大ブランドが地に落ちました。そこには様々な要因が考えられることでしょう。しかしながら、当事者たちに後輩たちを支援するという熱意と情熱が強ければ、このような事態は回避することができたのではないかと私自身は思っております。

母校への恩返しの想いが商学部の力を高める

商学部校友会は1974年に日本大学校友会の正式な承認のもと初代会長河原茂太郎先生をいただき発足いたしました。明年2024年は商学部校友会発足50周年を迎え、記念式典の開催や、記念誌発行の準備を着々と進めています。その半世紀の歴史で貫かれていたのは、学生たちを支えていく熱意と情熱です。そして、先輩方が赤誠の心で築いた商学部校友会の業績、伝統を正しく受け継ぎ、次世代へバトンタッチする仕事こそが私共にとって最大限重要な責務であります。

卒業生たちは、砧キャンパスにおいて商学、経営学、会計学を修め、あらゆる分野においてリーダーシップを発揮しています。それらの先輩たちが母校の後輩たちを支えることによってさらに優秀な人材が社会へと巣立ち、商学部自体がパワーアップし、その価値を高めることができます。そして、それは今、日本大学が直面している様々な試練を乗り越える力になると私は信じています。

後輩たちを支援するという熱意と情熱――その根底にあるのは砧キャンパスへの恩返しの想いです。砧キャンパスで過ごしたかけがえのない学生時代があったからこそ、今の自分自身があります。そして、多くの校友の皆様も同じ気持ちを抱いているのではないでしょうか。その真心を共有しながら、より一層校友会活動にお力添えを頂けますと幸甚でございます。今後の益々のご指導ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

日本大学商学部校友会報

発行所
日本大学商学部
校友会事務局
東京都世田谷区砧5-2-1
郵便番号　157-8570
日本大学商学部内
電話・FAX
03（3749）6720
発行責任者　山本　裕二

最新情報はホームページでチェック!
商学部校友会ホームページ
もっと詳しく!
https://nichidai-bus-kouyukai.com/
▶校友会行事の最新情報
▶ご連絡先の変更フォーム
随時更新中です！
是非ご覧ください。

日本大学の"今"を伝えるメディア
NU CATCH-UP
学びや教育、
大学の取り組みや活動など、
大学の最新情報を発信しています。
https://www.nihon-u.ac.jp/catchup/

日本大学
商学部
https://www.bus.nihon-u.ac.jp

奨学金寄付・資格取得支援

校友の輪で学生の学ぶ意欲を未来へつなぐ

左より、木崎孝之助商学部事務局長、山本裕二校友会会長、長谷川勉商学部長、吉原令子商学部次長

総額700万円を奨学事業のために贈呈

令和5年度奨学金寄付の贈呈式が11月9日（木）、商学部長室にて実施された。商学部校友会からは山本裕二会長、西川豊和副会長、猿谷吉裕副会長・幹事長らが出席。山本会長から長谷川勉商学部長に寄付目録が手渡された。

今回の寄付では、商学部奨学事業を支援する商学部奨学資金400万円を贈呈。さらに、商学部学生の職業会計人資格取得に関わる奨励資金として300万円を贈った。

奨学資金と奨励資金の目録を受け取った長谷川学部長は、謝意を述べた後、「奨学資金は〝自分で考えて行動できる学生〟を育てるために活用したい。また、公認会計士や税理士等、資格を目指す学生の頑張りに応えられるものとして、奨励資金を活用させていただく。学生の大きな励みになっている」と語った。

山本会長は、贈呈式後のインタビューにおいて、「奨学金は、学びたくても経済的に困窮する学生に対して毎年贈っている。以前ある学生から、親の会社が倒産したから大学を退学する話を聞いた。それは本当に可哀想なこと。先輩として支援すべきことだし、継続してやらなくてはいけないことだ」。さらに奨励資金について、「公認会計士や税理士を目指すなら商学部。日大商学部をアピールするためにも、合格者が増えてほしい。そのために支援したい」と語った。

贈呈式後、学部役教職員との意見交換会を行い、更なる商学部と商学部校友会の連携を確認した。

令和5年度

日本大学商学部校友会総会・懇親会を開催

令和5年6月3日（土）、商学部校友会総会・懇親会が東京・新宿のハイアットリージェンシー東京にて開催された。総会では、令和4年度の事業・決算報告、及び令和5年度の事業・予算計画、役員改選案が審議され、承認された。

懇親会では、再任となった山本裕二会長が、来年に迫った商学部校友会50周年に向けての抱負などを語った。商学部の長谷川勉学部長、校友会本部の瀬川一之事務局長からは祝辞を頂戴し、商学部の木崎孝之助事務局長からは乾杯の挨拶をいただいた。

新型コロナウイルスのパンデミックを経て、久しぶりに制約のない開催となった今回。名刺交換などの盛んな交流や、校歌も一同で歌唱されるなど、校友の団結が深まった会となった。

現役学生や若手幹事も多数参加。幅広い世代が交流し、来年の50周年に期待の持てる内容となった。

在学生の就職支援活動を行うイベントを開催

在学生と卒業生が対話する機会を創出

商学部OBOG訪問イベント

令和5年7月1日（土）、商学部校友会と商学部就職指導課の共催で、商学部OBOG訪問イベントが開催された。このイベントは、社会人の卒業生と在学生が対話する機会を提供し、就職活動に役立ててもらうことを目的としたもの。

商学部校友会の若手幹事12名が、学生時代に就職活動で悩んだことや、現在の仕事内容、勤務先の業界についてなどを説明した。在学生は説明に対して、メモを取りながら聴き入っており、積極的に質問をしている姿が見られた。今後も商学部校友会では、在学生に対する支援を実施していく。

卒業生である若手幹事たちは、在学生からの質問にも親身になって相談にのっていた。

インゼミ大会

学生主体の学術大会

大輪の花へと学びを「開花」インゼミ大会本選を12月17日（日）に開催

各ゼミナールが一堂に会し、日頃の研究成果に基づくプレゼンテーションを披露するインゼミ大会。12月17日（日）に本選が開催された。校友会審査員として塩野忠氏（昭和59年度商業学科卒業）、山本真義氏（平成8年度会計学科卒業）、大橋孝起氏（平成20年度会計学科卒業）の3氏が務めた。後輩達の熱のこもった研究発表を審査し、健闘したチームに校友会賞として、賞状と盾が山本裕二会長から授与された。

令和5年度 商学部校友会事業計画

1. 学部との連携

① 学部執行部との定期的な意見交換会を実施
学部長、事務局長及び役教職員と定期的に会合を持ち、相互理解と協力関係を深める

2. 校友との絆

① 会報の発行
本年12月に会報を校友に送付

② ホームカミングデー協賛
令和5年10月28日（土）第28回ホームカミングデーに協賛

③ ホームページの充実・活用

3. 在学生への支援

① 経済的理由により学業の継続が困難な学生を対象として学部と選考の上、奨学金を支給

② 資格取得者への奨励金
資格取得者に対し、表彰及び奨励金の授与

③ 学生団体との交流
学生団体との交流を図り、各種支援を行う

④ 卒業記念品の贈呈
卒業生に対して卒業記念品を贈る

4. その他

① 学部教職員、校友、在学生との交流会開催

② 商学部校友会50周年事業の準備（2024年）

令和4年度 商学部校友会事業報告

4月	1日	商学部新入生開講式
	7日	常任幹事会開催
	8日	日本大学入学式
5月	12日	常任幹事会開催（決算常任幹事会）
	20日	会計監査
6月	2日	常任幹事会開催
	4日	令和4年度　総会・懇親会開催
	7日	日本大学スポーツ振興特別委員会へ寄付（100,000円）
	16日	日本大学創立130周年記念募金（100,000円）
7月	7日	常任幹事会中止（急激な感染者増のため）
9月	1日	常任幹事会開催
10月	6日	常任幹事会開催 校友会奨学金関係寄付（4,000,000円） 資格取得奨励金寄付（3,000,000円） 砧祭実行委員会に協賛金贈呈（600,000円）
10月	29日	第27回ホームカミングデー（オンライン開催） 砧祭開催（対面）
11月	4日	日本大学校友会全国大会（中止）
	5日	商学部校友会第17回ゴルフ大会開催
	9日	常任幹事会開催
	19日	第7回歴史散歩開催
12月	1日	常任幹事会中止（感染者増のため）
	11日	第48回商学部インゼミ大会後援
	20日	校友会報第46号発行（校友宛15,000部送付）
1月	12日	常任幹事会開催
	18日	令和4年度日本大学商学部校友会奨学生の採用及び懇談
	26日	商学部役教職員と校友会役員の新年交歓会
2月	2日	常任幹事会開催
3月	2日	常任幹事会開催
	25日	日本大学卒業式 商学部卒業生へ記念品贈呈

躍動の原点 Special
OB・OGインタビュー 特別編

日大商学部を卒業し、社会の第一線で活躍するリーダーが登場するこのコーナー。今回は現役大相撲力士 大奄美元規関と関取が商学部時代に英語を教わった吉原令子教授、相撲部監督の木崎孝之助事務局長との三者てい談です。

日本大学商学部次長
吉原 令子 教授

経営学科 2015年卒業
現役大相撲力士
大奄美（だいあまみ） 元規 関

日本大学商学部事務局長
日本大学相撲部監督
木崎 孝之助 氏

【吉原氏の略歴】
主な担当科目:英語 ミネソタ州立大学大学院修了（女性学修士）。テンプル大学（日本校）大学院博士課程修了（教育学博士）。専門はアメリカ女性運動史、フェミニズム教育学。著書に『アメリカの第二波フェミニズム』、The Socially Responsible Feminist EFL Classroomなどがある。

【大奄美関の略歴】
本名:坂元元規。鹿児島県奄美市立赤木名中学校を経て鹿児島商業高等学校商業科では3年次に高等学校相撲金沢大会で優勝。日本大学商学部時代は宇和島大会で優勝したほか、団体戦レギュラーメンバーとして活躍。

【木崎氏の略歴】
名門である日本大学相撲部監督、強い精神力の養成と部員全員の士気の高揚に取り組み、前年度までに全日本学生相撲選手権大会の団体戦で31回の優勝を誇っている。本年5月から商学部事務局長に就任。

すべてに“一生懸命”を貫き通す

― 砧キャンパスも土俵も。真剣だった学生時代を語る ―

授業も稽古も手を抜かなかった

木崎：今は髷も結っているし、体重が増えて貫禄がついたが、こうして話すと学生時代と変わらないね。

吉原：私は立派になっていたので思わず「大奄美関とお呼びした方がよろしいでしょうか」って聞いてしまいました（笑）。すると「やめてくださいよ！吉原先生」と言われて安心しました。

木崎：どうぞ、学生時代のまま「坂元」と呼んであげてください。

吉原：ありがとうございます。坂元くんは本当に真面目でしたね。私が教えていたのは一限目の英語の授業でした。中には遅刻してくる学生もいましたが、坂元君は、いつも10分前には来て一番前に座っていました。やはり一流はちがうなと思いました。卒業後に角界で活躍されているのも十分に納得できます。

大奄美：授業は行くべきものだと思っていました。休もうと思ったことはまったくありませんでした。あった、たまにはあったかな（笑）。

木崎：ある意味、寮生活や相撲から解放される時間が大学の授業にあったのかも知れないですね。

吉原：砧キャンパスの中で一番好きだったところはどこでしたか。

大奄美：学食です（笑）。

吉原：普通の量で十分でしたか。

大奄美：いえ。大体は同じメニューの食券を2枚か、3枚買っていました。自分はたぬきうどんが好きだったので、いつも「天かすたくさん入れて」と言って3杯は食べていました（笑）。

真面目でないと商学部は続かない

木崎：彼は四股名の通り、奄美大島出身で中学も高校も私と同じです。その関係で真面目な人柄はよく知っていました。日大に入学が決まったとき、学部はどうするか迷っている様子でしたので、商学部を勧めました。商学部は運動部員であっても特別扱いせず、授業に出席しないと単位が取れないし、卒業もできない学部です。だからこそ、彼なら大丈夫だと思えました。

吉原：私自身、こちらで教えるようになったときに先輩の教授から「商学部は努力しない学生に単位を上げるような学部ではありません。このことをよく理解して臨んでください」と指導されたことがあります。

大奄美：自分自身は商学部で勉強することが大変だとは一度も思ったことはありませんでした。逆に鹿児島商業高校時代から簿記は好きだったので楽しく学べたと思っています。

数々の団体戦の中で目覚めた日大愛

木崎：彼には入部してすぐに団体戦の大将を担ってもらいました。相撲の団体戦は一人ひとりにすべてを任せるわけです。下級生であろうが、4年生であろうが、その選手が1点を取ることによって勝利に近づくわけですから、一人ひとりの頑張りに対して皆が声援を送り、勝てば大きな拍手で喜びを共有します。その中で強い絆が生まれ、チームワークが育まれていきます。そういった団体戦の中で責任が重いのが大将です。

大奄美：なんとしても勝たないといけない状況です。ただあまりガチガチに力み過ぎるといい相撲が取れませんが、それでも団体戦で土俵に上がる度に日大の看板を背負っていることを実感するようになっていました。日大愛のようなものでしょうか。支え合う仲間がいる日大のために勝とうという意識がいつの間に芽生えていました。

和気あいあいとした雰囲気であの頃を振り返り、語り合う。

いつか商学部の学びを活かしたい

木崎：相撲部の部員には「何でも一生懸命やろう」とよく話すようにしています。稽古はもちろん、遊ぶときも休むときも勉強するときも一生懸命です。

大奄美：私がモットーとしているのは、中学校のときに校長先生からお聞きした「念ずれば花開く」という言葉です。とにかく自分が心に決めて無我夢中で頑張り続ければ、必ず結果が出るようになるという意味ですが、それは今、木崎監督がおっしゃっていた〝何でも一生懸命頑張る〟ことに通じると思います。

英語と相撲の2人の恩師と再会し、次の場所への闘志を燃やす大奄美関

吉原：世の中、様々な場面で効率性が求められています。その中で私が教えている英語の授業は少人数ですから、いい加減な授業態度ですと、すぐわかりますし、その上単位数も少なく、いわば効率が悪いわけです。そんな英語の授業を坂元くんは一番前の席で、遅刻もせずに真面目に一生懸命受けてくれました。

私は学生たちには「とにかく真面目に授業に来なさい。真面目に来ている学生がバカを見るような授業はしません」と必ず話すようにしています。これは私だけではなく、商学部のすべての授業にあてはまるように思います。その意味では坂元くんは、商学部が求める学生像に近かったのではないでしょうか。

大奄美：ありがとうございます。日大商学部で良かったことは、立派な監督、学生を支えてくれる温かい先生に出会えたことに尽きます。

吉原：実際に商学部で勉強した簿記やマーケティングの戦略論などは、いつか引退したときに相撲部屋を経営したり、新しいビジネスを立ち上げたりするときに活用できるかも知れないですね。

大奄美：実は僕、簿記検定の2級を持っています。

吉原：素晴らしい。さすが商学部卒業生ですね。

大奄美：今は相撲に全力集中していますが、引退後はまた勉強するかも知れません。もちろん英語も頑張ってみます（笑）。

一同：本日はありがとうございました。

就任にあたって

日本大学商学部事務局長　**木崎 孝之助**

商学部校友会の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

本年5月10日付をもちまして商学部事務局長を拝命いたしました。何卒よろしくお願い申し上げます。商学部には新校舎の竣工時にもお邪魔したことがあり、爽やかな緑や伸び伸びとしたキャンパス、そして設備など他の都市型キャンパスにない魅力を感じておりました。今、その一員として務めさせていただく中で日々、砧キャンパスならではの素晴らしさに出会えております。

日大は今、新しい時代を迎えようとしています。そして、先生方も職員も懸命になって学生ファーストを更に進めるため、目の前の課題に取り組んでいます。私もその一人として山本校友会長をはじめとする商学部校友会の皆様とも連携を強めながら、日大の新時代を開くために尽力してまいる所存でございます。より一層のご理解と温かいご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

もっと詳しく！ 三者てい談のより詳しい記事は 日大商学部校友会 OB・OG で 検索

4年ぶりの対面開催で大盛況！ 校友の笑顔が咲いた

ホームカミングデー 開催

令和5年10月28日(土)、日本大学商学部ホームカミングデーが砧キャンパスにて開催された。対面での開催は4年ぶりとなり、校友が再会を喜び合った。

商学部の未来を語ったトークセッション

第28回となったホームカミングデーは二部制で行われ、第一部は商学部講堂にてトークセッション、第二部は食堂にて懇親会が行われた。

第一部でははじめに、参加した商学部卒業生に向けて山本裕二会長が挨拶を行った。そして、「商学部のこれまでとこれから」というテーマの下、有限責任監査法人トーマツのパートナーとして活躍する奥津佳樹氏（1995年会計学科卒業）、長谷川勉商学部長の両名によるトークセッションが行われた。砧キャンパスの昔と今の比較や、少子化における受験生の確保、商学部の現状と展望、校友ネットワークなどの話題に対して意見が交わされた。トークセッション後には、会場の参加者より、熱の入った質問や意見の交換もなされた。

恒例の福引抽選会も復活 盛んな交流の場に

第二部は、校友の親睦を深めることを目的とした懇親会が開催された。猿谷吉裕副会長が挨拶を行い、吉原令子商学部次長により乾杯の発声で始められた。会の合間には、招待した元教職員の紹介などが行われた。

終盤には、恒例の福引抽選会が行われ盛り上がりをみせた。当選番号が発表される度に、悲鳴と歓声があがっていた。特賞は、校友会の若手幹事が当選し、校友ネットワークの中心を担ってほしいと期待の声がかけられていた。さらに校友会長賞も発表され、大盛況の中、名残惜しくも閉会となった。

第1部は、有限責任監査法人トーマツの奥津佳樹氏と長谷川勉商学部長のトークセッション

挨拶をした山本裕二商学部校友会会長

挨拶をした猿谷吉裕副会長

乾杯の発声は吉原令子教授

第2部は、食堂「アゼリア」にて懇親会

同窓生や先生方との久しぶりの再会に、OB・OGたちの笑顔があふれる

福引抽選会では、当選者がステージに上がり喜びの声を一言。

お子様連れの参加者も多数あり、賑やかな会となった。

特等が当たり、驚きの表情。

木下征彦准教授からは、現役学生と卒業生とのつながりが生まれたエピソードを披露。

第52回 砧祭

校友会からも開催を支援

令和5年度砧祭が10月28日(土)・29日(日)に開催された。第52回のテーマは「OVER」。対面開催が復活した昨年度を超える、良いものを作りたいという想いが込められ、今年はゼミナールやサークルによる飲食の屋台が復活した。

体育館地下アリーナでは、ダンスサークルJBSがキレのあるダンスを披露。

高久保ゼミナール学術展示では、アジアの次世代ビジネスモデルの研究を紹介。

開祭式には山本裕二会長が出席。無事に開催を迎えられたことへの喜びを伝え、厚坂直柔砧祭実行委員長に校友会からの砧祭支援金の目録が渡された。

会場では、プロアーティストによるライブイベントや、フリーマーケット、ゼミナールや団体による企画・展示などが行われ、参加者を楽しませていた。

寄付金を贈呈した山本裕二商学部校友会会長と砧祭実行委員長の厚坂直柔さん

第18回 校友会ゴルフ大会を開催

恒例のゴルフ大会が、10月21日(土)晴天の中、武蔵野ゴルフクラブで開催された。商学部から3名の教職員の方をお迎えし、総勢17名、参加者は26歳から81歳と幅広くそれぞれが優勝を目指し白球を青空へ放った。今年より「声出し応援も解禁?」となり、各組では珍プレー・好プレーが出るたびに、歓声があがり例年以上の盛り上がりを見せた。優勝は渡部秀一監事。ホールアウト後は、年齢の壁を超え、ラインを交換しあう微笑ましい風景もあった。

歴史散歩 ―― 第八回

愛宕神社・増上寺など東京タワー周辺の史跡を訪ねる

息を切らしながら出世の石段に挑戦

校友会主催の第8回「歴史散歩」が11月18日(土)に開催された。江戸の史跡を訪ね歩く企画として毎年開催され、今回は愛宕山・芝の史跡を巡った。江戸文化歴史検定1級を持つ秋山修先生と関一成先生に、今年も講師として案内していただいた。

41名の参加者は神谷町駅近くの公園に集合。西川豊和副会長が開催にあたり挨拶を行い、秋空と色付く木々の下、一同は出発した。

愛宕神社の石段を駆け上がる参加者達

講師として案内していただいた秋山修先生(左写真)と関一成先生(右写真)

訪れたのは、天然の山では東京23区で最高峰の愛宕山。愛宕神社に向かう急勾配の階段は、出世の石段(男坂)と言われているため、先生の「出世をしたい人は是非」という言葉で、半分以上の参加者が挑戦していた。

在学生も参加しさまざまな世代が交流

時折ビルの合間からのぞく東京タワーを見ながら、徳川家の菩提寺である増上寺に到着。境内にある約15トンの大きな鐘は、当時どうやって運ばれたのか、先生が参加者に問いかけ、皆で考えを巡らせた。その後、6人の将軍が祀られている霊廟も見学した。

その他いくつかの史跡を巡り、辺りが暗くなる中、最後は都内有数の古社である芝大神宮で散歩は終了となった。

コロナ禍の影響で見送られていた在学生の参加も今回から可能となり、前回の倍の人数が参加。幅広い世代が交流の場を持てた企画となった。

増上寺と東京タワーの前で記念撮影

もっと詳しく! 「歴史散歩」の当日の様子や写真は、日大商学部校友会　歴史散歩　で 検索